

令和7年度 第2回磐田市立図書館協議会会議録

□日時 令和8年2月3日（火） 午後3時から午後4時30分

□場所 磐田市立中央図書館2階視聴覚ホール

□出席者 委員：中山ゆかり、鮫島はるか、佐藤寛子、山田美沙、大橋八重子、
青島公悦、藤原なお美、宮崎真理子、匂坂和子（以上敬称略）

事務局等：

山本敏治教育長

中央図書館：伊東直久館長、高杉順也館長補佐、井上隆志主査、
平野義久主任、江塚理恵子主任、高橋潤副主任

福田図書館：太田雄介館長

竜洋図書館：鈴木康之館長

豊岡図書館：伊藤傑夫館長

にこっと：藤田昌弘館長

学校教育課：鈴木公宣指導主事

□傍聴人 0名

□内容 以下のとおり

議事（1）令和7年度事業の取組状況について（以下、事務局）

磐田市立図書館は、全館でひとつの図書館という共通認識のもと、各種事業を実施してきました。その中で、主要な取り組みを中心に説明をさせていただきます。

まず、令和7年度主要事業の効果的な情報と魅力の発信に関する取組について報告いたします。新たな魅力の発信のうち、中心的な事業として、11月29日と30日の2日間にわたり、中央図書館にて図書館フェスティバルを開催いたしました。こちらは、図書館をより身近に感じていただくことを目的に、普段実施しているおはなし会や読書講演会、映画会といったイベントを2日間に集約して実施しております。当日はバルーンアートによる館内装飾やキッチンカー等の出店により日常とは異なる雰囲気を出いたしました。メイン企画としては、赤羽茂乃さんをお招きし「スーホの草原にける虹～赤羽末吉の人生と絵本～」と題した講演を開催し、大変好評を博しました。その他、けん玉やヨガの体験会といった多彩な催しに加え、静岡産業大学の協力による絵本シアター、磐田消防本部の協力による防災VR体験や、消防車両の展示など、多くの機関と連携を図り企画を実施しました。

次に、LINEやInstagramなどのSNSを積極的に活用し、各図書館で実施したイベントや、特設コーナーの様子を写真と共に発信することで、情報発信力の強化に努めました。これと並行し、各図書館それぞれの特色を生かした独自のイベントを開催しております。具体例を挙げますと、中央図書館では歴史講座として、寺谷用土地改良区と共同でイベントを開催し、また、社会見学として、SDGs学習のために、市内企業の株式会社コーシンサービスの施設見学を実施しました。また、竜洋図書館において奏でる図書館推進事業と題し、音楽に親しむ多彩なイベントを展開しました。これらの取り組みにつきましても後ほど報告いたします。

次に、子ども読書活動推進事業について説明いたします。まず、第5次子ども読書活動推進計画の作成について、本来であればこの協議会の場で委員の皆様にご意見を賜るところでございますが、現在上位計画である県の計画が作成中であり、その内容と整合性をとる必要性が生じております。市の計画策定が当初の7月にお示しした予定より若干遅れておりますことをご了承いた

だきたいと思います。今後、事業策定を進めるにあたり、改めて委員の皆様にご意見を伺いご協力をいただくこととなりますので、その節にはよろしく願いいたします。

次に、各図書館におけるイベントや主な活動状況を抜粋して掲載いたしました。まず中央図書館につきましては図書館フェスティバルや図書館ラボ、市内企業等の施設見学ツアーなどの様子を掲載しております。福田図書館は、子ども読書週間の企画としてふくふくガチャポンクイズや福田こども園と連携したおはなし会を実施しております。竜洋図書館は、奏でる図書館推進事業の一環として、竜洋中学校弦楽部ミニコンサートを開催し好評を得ました。また、豊岡図書館は子育て支援センターとのコラボレーション企画として、出張おはなし会を実施しております。にこっとは、磐田市制20周年記念事業といたしまして、絵本作家よこたけいすけ氏と、声優のかかずゆみ氏によるイベント「絵本の世界」や、音楽ユニットふくろうずによる歌遊びライブを開催いたしました。このように各館がそれぞれの地域性を活かし市民の皆様楽しんでいただける多様な活動を展開しております。

次に、各館の開館状況や資料の貸し出し状況など、今年度の11月末の実績を記載しております。まずは、にこっと・ながふじ図書館を含めた全6館の入館者数、利用者数、貸出数が記載されています。利用者数は、入館された方のうち、実際に資料の貸出しをした人数になっており、6館で合計22万3,841人の方が11月末までにご利用になりました。前年と比べて2,581人の減少となっております。また貸出数につきましては、実際に図書等資料の貸出しをした点数を記載しております。6館で75万2,610点になりました。こちらも前年度と比較して、2万6,318点減少となっております。減少の主な要因としましては、6月から7月にかけてにこっと2階の施設改修を行い、その期間臨時閉館されたことが影響したものではないかと推測されます。

次は新型コロナウイルス感染症流行前の令和元年度との比較をした資料となっております。まず一日平均の入館者数です。令和元年度と比較しましても、若干まだ少ない状況ではありますが、着実に回復していることが伺えます。次の一日平均の貸出利用者数につきましては、令和元年度の水準まで回復した認識であります。そして一日平均の貸出点数につきましては、入館者数と同様の傾向でありまして、令和元年度に僅かに及ばないものの、回復基調であると認識しております。いずれにしても、各館におきまして改修工事などが実施される時期ですが、総じて入館者数や貸出者数は回復傾向にあります。今後も市民の皆様により身近に立ち寄っていただける施設となるよう魅力の発信に努め、市民の読書意欲のさらなる向上を目指し、引き続き安心安全な図書館運営に努めてまいりたいと考えております。なお、児童サービスや障害者サービス、各館の主な事業、電子図書館の状況については資料にてご確認ください。説明は以上となります。よろしく願いいたします。

〈質疑・意見〉

(委員)

竜洋図書館で行われた中学生の弦楽コンサートに伺わせていただきました。外は寒かったのですが本当に温かい感じで皆さんが弾いていらっしゃるのを見て、素敵なお披露の場になっているなと感じました。音楽と本で協奏できる場だなという感じがしたので、もっともっと開催していただければいいなと思いました。中学生の方も大変だと思いますが、市民の方の趣味披露の場、例えばピアノを弾いていただくとか、そういったことも企画していただけたら嬉しいなと思いました。

(委員)

今年初めて図書館フェスティバルで本学の学生が関わりを持たせてもらいました。一つは、

ボランティアという形で学生が参加をさせていただきました。もう一つは絵本シアター、先ほどご紹介いただきました、学びの一環として参加いたしました。学生に終わった後、レポートを提出して貰いましたが、とても楽しかったと書いてありました。消防士の方や色々な方と交流ができたようで、皆さんとても親切で学生と色々お喋りをしたりだとか、経営学部の学生は、小さい子供と一緒にイベントも初めてで、とても楽しく自己肯定感を高める経験になったようです。大学といたしましても、今後もこのような形で地域連携ができればと考えております。ありがとうございました。

議事（２）令和７年度図書館評価の中間報告について（以下、事務局）

令和７年度図書館評価の中間報告について説明いたします。まず図書館評価につきましては、今後の図書館のあり方や計画を立てていくために、令和６年度から実施させていただいております。毎年度、第１回図書館協議会で前年度の自己点検結果報告および外部評価を実施し、第２回図書館協議会で当年度の中間報告をするサイクルとなっております。前回の図書館協議会で、令和６年度の自己評価結果を報告させていただきました。皆様からご意見をいただいたところですので、今回は今年度途中の令和７年１１月末現在の自己点検の中間報告をさせていただいております。今年度の結果報告は次回、令和８年度の第１回図書館協議会で報告させていただきます。そこで前回と同じように外部評価として委員の皆様から再度内容や指標数値目標等についての評価やご意見をいただき、公表するようになります。

中間報告の表につきましては左から順に主な取り組み、指標、令和７年度の数値目標、取組内容、数値目標の説明及び前年度実績、令和７年１１月末現在の数値となっております。括弧の中は必要に応じて前年度の同時期の数値を入れております。

どの項目につきましても、前年度同時期と数値比較からも目標達成に向けて順調であると考えております。引き続き目標の達成に向けて、数値的にも事業内容的にも充実したものとしていけるよう努めてまいりたいと思っております。今回は中間報告の数字になりますので、内容をご確認いただき、現時点で気になるようなところやご不明な点等あれば、ご意見をいただければと思います。説明は以上となります。よろしく願いいたします。

〈質疑・意見〉

(委員)

子どもと読書講演会等の参加人数が、令和７年度数値目標は150人、そして令和７年数値は280人ということで、大差がありますがどういうふうに見たらいいんですか。

(事務局)

まず令和７年度数値目標は、令和６年度の実績から設定したのですが、読書講演会と、物語ライブの合計数値になります。続いて、今年の280人は、全２回の絵本大学と読書講演会の合計数値となっております。

(委員)

当初の目標よりもぐっと増えたということですね。わかりました。ありがとうございました。

(委員)

「電子書籍貸出・閲覧数」が令和６年度34,462点よりも今時点で66,521点で倍くらいになっているのがすごいと思いました。あと「子ども向け講座・行事等の参加者数」についても多くなっていて、先ほどの図書館フェスティバルであるとかお話し会であるとか、そのようなワ

クワクする催し物がたくさんあっていいなと思いました。それと「郷土資料蔵書数」とか「児童図書の蔵書冊数」であるとか、先ほどの「子どもと読書講演会等参加者数」など、全て今の時点でいい数字が出ていると思いました。さきほどの説明の部分でもう少し詳しく聞きたいことがあって、事業報告の各館の入館者数のところですが、中央図書館も福田図書館も竜洋図書館もなぜか、10月がガクンと減っているのは何か理由があるのかと少し疑問がありました。以上です。

(事務局)

推測ですが10月は地域のお祭りなど様々な行事があり、それが影響して減っているのではないかと思います。

(委員)

学校の地区もお祭りや運動会もあったり、読書の秋といえどもみんな忙しかったのだと思いますが、本当に全部そういう傾向だったので、びっくりしただけです。ありがとうございます。

(委員)

これを見るとやはり電子図書館関係の数値目標が1万3千点とか11万点とかっていう大きな数字で出てますね。これからはだんだん電子化というのは進んでくるというのがこの表でわかりますね。世の中はどんどん変わってるっていうのはこういうことでしょうね。

議事(3) その他について

今年度重点を置いた取り組みとして、11月29日、30日の2日間にわたり実施した中央図書館の図書館フェスティバル及びにこっとの磐田市20周年記念事業「よこたすけとかかずゆみ絵本の世界」について、パワーポイントによる写真を交えて説明。(説明略)

〈質疑・意見・感想〉

(委員)

フェスティバルの色々な活動報告を紹介していただいた中でナイトツアーで、図書館の二階の閉架書庫の見学や、埋蔵文化財センターで、資料の見学ができたことはとても良かったことではないかと思えます。展示物は普段から見れますが、収蔵庫の中の方はなかなか見ることができないと思いますので。管理も大変だと思いますが、かなり昔のものがあって参加者は新しい発見の場であったと思います。

(委員)

にこっこのイベントに両方参加させていただいております。午前中の部は子供と一緒に参加させていただき、かかずさんの声優ならではの読み聞かせが本当に素晴らしく、自分も心を打たれました。それと、子供と一緒に参加したあんこときなこのお洋服作成が本当に楽しく、横田さんのダンボールアートに触れさせていただいたことが良かったなと思います。磐田市にこんな良い方がいてくださって、そういう方と触れ合う機会をいただけたことが、子供と一緒に良かったなって思っています。今年学校図書館部の代表をさせていただいてるんですが、よこたすけさんを講演会にお招きして、表紙だけの絵本を作るというワークショップを学校図書館部でも行いました。絵本を作るための発想をご教授いただき、学校図書館部の職員にも好評でした。また一緒にこのような企画ができたらいいなと思っています。

図書館ラボの企画がすごくいいなと思いました。なかなかコロナ禍以降施設見学の受け入れが減っているのが現状です。例えば学校で見学に行けないのであれば、活用できる図書館の資料の紹介や、図書館と学校がコラボして見学をさせていただけると嬉しい。小中一体校ができ

る関係でなかなか市内のバスが使えない現状で、社会見学のバス利用についても来年から苦しいところになります。学校と一緒にコラや企画ができると助かります。よろしくお願いします。

(委員)

本日は社会教育委員として参加してしますので、その点でまとめさせていただきます。社会教育施設として図書館と交流センター等いろいろありますが、今回お話しを聞いて本当に交流センターを凌ぐような活動をされているなど感銘を受け感動いたしました。図書館フェスティバルについては、おそらく皆様、各館でコツコツと資料にあるような活動を長年されてきたことの集大成というか。それがなければ、このような大きなイベントをすぐにといいわけにはいかないでしょう。すごく大変だと思います。今までの皆様のアイデアや活動が、大きく繋がった形であるなどというのを非常に感じまして本当に感動しましたし、磐田市すごいなと思いました。

特に外部との連携はすごく大変なことです。それに対して一つ一つ関係する方々に負荷もすごくかかると思います。これを積極的にされて、LINE スタンプラリーの時にスマホの操作サポートをつけるなど細やかさに感動しました。是非これは委員会に持って帰って、社会教育委員の中でも共有させていただきたいと思いました。2日間で3,000人を超える来場があったというのも、豊岡図書館の1ヶ月間分ぐらいの方が来られてるってことですし、まだポテンシャルもすごいあるし、もっともっと市民の方に知ってもらいたいですし、産業大学さんの学生さんとコラボしたり、本当に磐田市の未来に繋がる活動であるなどすごく思いました。にこっこのよこたけすけさんの方もですね、本を活用した文化施設として他団体と連携されていくというビジョンをお持ちということで素晴らしいなと思いましたし、今自分達がやっている活動を絡めると、今後図書館が交流センターと同じくらい、居場所であったり市民の憩いの場になっていくという可能性を非常に感じて感動しました。ありがとうございます。

(委員)

とても素晴らしい活動の様子を拝見させていただいて、皆さんどの館も素晴らしいなと思っています。色んなことを、柔軟性を持って色んなところと連携してとても素晴らしいなと思うんですが。この活動に参加されていない人達を今後どうやって参加させるかっていう所をやっぱり、もうちょっと考えて何かできるといいなと思っていました。あと、図書館って本来は、本を読むところ、本を楽しむところであってほしいので、それを踏まえて図書館に足を運びたいっていう人が落ちこぼれていかないようなこともちょっと考えてもらえたらいいかなと「おはなし」をしてる身としては思っていました。何か参考にさせていただければと思います。ありがとうございます。

(委員)

私は一時期本に嵌っている時がありました。テレビを見ていたら、本を編集している会社の人、本について詳しい人が、自分が薦める本について色々教えてくれる番組があり、「ここが面白くて」みたいなことを言うてくださるんです。それを聞いていると凄く興味がわき、読んでみようかということが続けていた時期がありました。そういった感じで、例えばにこっとう等てこういったイベントがあった時に、本が大好きで色んなことを語りたい、これについて皆と気持ちを分かち合いたいみたいな場を作ったらどうかと思います。皆でこの本について語ろうみたいな場所を企画するとか、もう既に昔やったことがあるかもしれないですけど、そういう気持ちを分かち合える場があるといいなと思います。あと、司書さんのお仕事を見れるというか、どんなことをされていて、どんなふうの本が動いていて、本も移動してるじゃないですか。そういったものをツアーしていただく。もう既にやってるかもしれないですね。

(委員)

この度、初めて私も図書館フェスティバルに足を運びまして、学生と共に事務局からぐるっと回って見てきて、職員さんには非常にお世話になりまして、ご相談をさせていただいたんですけど、これだけの人数でよく正直回しているなど驚きました。もし可能でしたらこれも一つの提案なんですけど、実行委員会みたいなものを作りまして、市民の方々や学生と共にフェスティバルを盛り上げていければ、また違った形で展開できるのではないのかなというふうに思いました。何ができるかわかりませんが、また協力できることは大学と一緒に補助できればと思っていますので、お願いいたします。

絵本シアターとしましては、これは実は4年生の研究の一環として展開したものでして、絵本を劇場のように実践するという、調べても世界でも前例がなくて、初の概念ではないかということで、学生も非常に苦労しながらここまでたどり着いたものになります。その舞台としてここで実演したんですけど、パーフェクトな舞台を用意してくださって、学生の学びの場としてもとても有効だと思っています。そして市民の方や、議員さんや本学の教職員も足を運んで、お父様お母様からのアンケートも非常に好意的なアンケートをいただきまして、学生の学びへの意欲とか、研究への意欲に繋がりましたので、そのような場をいただけたということも、非常に本学にとっても貴重な体験でした。できたら今後も続けていきたいなど、大学としても教職員も思っております。

(委員)

デジタル化が進んでいて、子供たちにスマートフォンやタブレットが普及されていて、本離れが学校の中でも言われています。特に読解力が本当に低くなったというのが定着度テストを通して、国語だけでなく算数でも読み取る力が少ないところを、本校の職員とも話しているのが現状です。今回、読み放題パック(電子図書)の方を更新していただいて、かなり読めるものが増えたなど自分の子供のタブレットを見て感じています。なかなか本を借りに行く時間がない中で、こういう機会を活用したいと思います。私は自分が教員をやっているので、こういうシステムがあることをよくわかっているのですが、保護者の中には「デジタル読み放題パックで何？タブレットで本が読めるの？」と、学校の懇談会に行ってもそのように言っている保護者がいたのが現状です。例えば保護者に周知するとか、こういう本を読めますよというイベントをやっていただいたりすることも一つ案にあるのかと思っています。学校では「読みましょう」と声かけはこれからもしていきたいですし、先程の絵本シアターなど学校でもやっていただけたらすごく面白いと思っています。ちいさなおなべの会さんや、お話とわの会さんには読み聞かせで色々学校に入っているという話を聞いていて、そういう所で学校との連帯も一緒にさせていただけたら嬉しいと思います。今後も学校にご協力いただけたら嬉しいです。

(委員)

私の希望としては、図書館に行った時に「何か読みたいんだけど、おすすめない？」と聞いた時に、どの職員さんも「この本どう？」ってアドバイスができる、デジタルとは逆のところも残してもらえたら人間として嬉しいかなと思います。素晴らしい取り組みと同時にそういうところも残してもらえたら嬉しいという考えです。

(委員)

先ほど、ボランティアの小学校中学校に入っているという話ですが、私はずっと10何年、近所の小学校、中学校、幼稚園に行っていますが、最近感じるのが保護者のボランティアが少ない。本当は保護者の方が朝読書と一緒に読んでいただけると私達は嬉しいんです。私達のボランティアが入って、不足分を埋めてるところが現実ありますので、保護者の方がご参加くださるような方法を検討いただけるとありがたいです。子供は知っている人が来て読んでくれる、お話してくれるのが一番嬉しいと思いますし、地域でそれができたらそれに越したことはないと思います。今、朝読書がやめられていく傾向にあるので、保護者が減って学校がやめていく、という傾向を何とかして図書館員の方で止めてほしいと切実に思います。特に中学校がやめていく傾向が多いです。私達はストーリーテリングとして入ってるので、本は持っていかないのですが、皆よく聞いてくれます。学校によっては聞きたい子供だけ図書館に集まるということもあるのですが、私達の気持ちとしては、そこへ足を運んでくれない子にこそ聞かせてあげたい。みんなが平等に行けるような時間帯というのを学校側で設定していただけると、嬉しいと思っています。

議事(3) その他(以下、事務局)

連絡事項

- ・任期について(令和9年6月30日まで)
- ・令和8年度第1回図書館協議会の開催について(令和8年7月頃に予定)

(教育長より)

本日はありがとうございました。また、本当に「なるほどな」というご意見を各々の方からいただきました。

フェスティバルでは職員は大変ながらも、他とのコラボや、実行委員会の話もあり、もっとこうしたいと職員が頑張って色々なアイデアを出し、多分館長は待て待てとなったのかなと思いますが一生涯懸命職員が頑張り、あのような形で2日間迎えることができました。私も見させていただいて、子供が主人公になりきって一生懸命考えている姿や、学生の皆さんがちょっと困った顔をしながら、子供と関わってる姿など、そんな姿を見させていただきました。

先ほど学びの拠点という話がありました。図書館が読書機能や学習機能、情報発信機能など、そこはもうマストだと思います。プラスどうやって本をどれだけ好きになって貰うか、もっと言うと学びの原点であるワクワクドキドキみたいな体験を通して学びの関心を高めていく、そんな仕掛けをすることも、やはり図書館の機能なんだということを今日改めて感じた次第です。

先程、学校教育現場のご意見をいただきました。立場上言わせていただきたいと思いますが、仰る通り朝読書の時間が軽減されてきています。いわゆる教職員の働き方改革であり、そこもすごく大事なところで、どうやって学校の中で事務処理も含めて仕事をこなしていくのか。学校も、1日の時間が決まっているものですから、そこをどうやって子供と向き合う時間を作っていくのかというところを今、必死で考えています。先ほどご意見いただいたように子供たちの読書離れが進んでいるのは確かだと思います。磐田市は「茶の間ひととき読書運動」を昭和46年からずっと活動していますので、そういった素地を生かしながら、子供たちにいかに本に興味を持ってもらい慣れ親しんでもらうかを読書推進計画の中に盛り込み、また生涯学習の中

で子供たちから大人まで学んでいただき、図書館の三つの機能とフェスティバルなど体験を併せて実施できたらと聞いていて思いました。コラボレーションの良さ、皆さん共通理解されたと思いますので、そのような連携も含め進めていけたらと思っています。ご意見ありがとうございました。

以上で、本日の議事をすべて終了いたしました。ご協力ありがとうございました。

※以上をもって委員会は終了